

さて、みなさんは日頃からさまざまな「家畜」のお世話になっていると思います。

や「豚」そして「鶏」などの家畜の肉です。特に「牛」は肉だけではなく、その乳をチーズ、バター、それにヨーグルト等の加工食品としても利用しています。わたしたち人類は、^A食料以外の目的でも、家畜を飼育しています。ウールのセーターは「羊」の毛から、シルクのハシカチは「カイコ」の繭から、クツやハンドバッグなどの革製品は主に「牛」や「豚」の皮からつくられています。

車社会の現在、先進国の都市などではあまり見られなくなりましたが、馬や、ロバ、ラクダは人類にとって運搬や①ユソウをになう重要な家畜でした。特に、アラビアの国のヒトコブラクダは「砂漠の船」とも呼ばれ、砂漠の中を2週間近くも全く飲み食いせずに旅ができる、とても燃費のいい家畜です。東南アジアでは、現在でも水牛が農耕には欠かせない地域もたくさんあります。このように荷物や人の運搬、そして農作業など、人間の労働を助ける家畜もいます。また、ラットやマウスのように、実験に用いられる家畜もいます。次々と新薬が開発されるなか、その効果や安全性がチェックされ、私たちがその恩恵にあずかれるのも、このような実験動物の命と引き換えなのです。

さらには、愛玩動物（ペット）として人々の心を和ませてくれる家畜もいます。ハムスターやインコなどもそれにあたります。もちろん「いぬ」や「ねこ」も現在では、愛玩動物または伴侶動物として人間に飼われています。

2、もともとの家畜化の目的は単なる愛玩動物ではありませんでした（部分的にはそうだったかもしれませんが）。「いぬ」の場合は、狩猟のパートナー、羊やヤギなどの別の家畜の管理（牧羊犬として）、さらには食用のためという説まであります。そして「ねこ」の場合は、やはり第一にネズミの駆除が大きな家畜化の目的でした。このように、人類が家畜を飼う理由はそれぞれの家畜の特性によって実にさまざまです。

どの家畜も、もともとなる野生動物（原種）が存在します。たとえば、豚の原種はイノシシ、牛はオーロックス（絶滅種）、鶏はヤケイ、マウスはハツカネズミ、「いぬ」はオオカミ、そして「ねこ」の原種はリビアヤマネコです。人類は野生種がそれぞれの目的にかなった家畜となるよう、長い時間をかけて動物の姿や性質を少しずつ変化させていきました。たとえば、豚の場合は、成長が早く肉質の良い親を選んで繁殖させたり、犬では、人間の指示に従って忠実に仕事をこなし、かつ従順なものを選んで子犬を産ませたりしてきました。その結果、原種の野生動物とは姿や形、性格までも随分と異なった家畜が完成しました。

そのようななかでねこは、その^B家畜化のプロセスも含めて、ほかの家畜とは異なる点がいくつか見られます。違いのひとつは、ほとん

どの家畜は、その原種である野生動物を、人間が野山で無理やり捕まえてきて飼育することから始まりました。しかし、ねこの場合は、野生のネコのほうから人間に近づいてゆき、そこで人間との^C緩やかな関係が始まったことです。もちろん、ネコをひきつけたのは人間の居住域にはびこるネズミでしたが、人間のほうもネコの有用性に早くから気づき、近くに住むことを許していたのでした。

家畜ではありませんが、この初期のネコと人との関係に非常に近い動物がいます。日本では、ひと昔前までの家屋ではおなじみだった動物です。みなさんは思いあたる動物はいませんか？ それは、アオダイショウというヘビです。アオダイショウは本来だと野山に生息している野生のヘビですが、民家に住む大好物のネズミにひかれて、天井裏などに住み着いていました。少し^②年配の方からよく聞くのは、子供の頃、寝ていると天井から大きなアオダイショウがドサリと布団の上に落ちて来て、ビックリしたというお話です。その家に住む人も、アオダイショウがネズミを退治してくれる有益な動物であることをよく知っていましたので、殺したり追い出したりはしなかったそうです。昔の日本の家屋では、人とアオダイショウが一つ屋根の下で、お互いの存在を認め合いながら、「平和的共存」の関係にありました。ネゴと人の関係の始まりも、まさにこれと同じようなものだったのでしょう。このように、双方が自然に、そして平和的な歩み寄りによって関係を始めた家畜は、「ねこ」だけです。「いぬ」の原種のおオオカミも残飯や家畜を目当てに、人間に近づいてきたとも言われていますが、初期の頃は平和的な共存はなかったと思われる。それは、オオカミは人間を喰い殺す能力を持ち、決して油断することのできない危険な野獣だったからです。

次にふたつめの、ねこが家畜として特異な点は、^Dネコが人間と出会って1万年近くが経過しているにも関わらず、ほとんど体の形や大きさが変わっていない点です。多くの家畜は、家畜化の過程で外見は原種とは大きく変化しています。また品種改良によって、姿や形も様々な多くの品種がつくられました。「ねこ」の特異な点は、生物の分類学のうえでも近い「いぬ」と比べてみるとよくわかります。

いぬのなかで、体が最小のものはチワワです。体重が3キログラム程度、体の高さも20センチメートル程度です。一方、最大級の大きさのいぬとなると、グレートデンや、アイリッシュ・ウルフハウンドという犬種です。体重が100キログラムを超え、体高が1メートル、体長が2メートルを超えるものもいます。ちよつと無理をして例えるならば、ウサギから子牛くらいまでの大きさの幅が、同じいぬという種のなかにあることになります。また、形のうえでも、いぬにはダックスフンドという胴が地面についてしまうほど脚の短い犬種があります。あの精悍な姿のおオオカミから、このダックスフンドがつくられたなどとはとても想像できません。また、そうかと思えば、脚が競走馬のように長いグレイハウンドという犬種もいます。このようにいぬでは、同じいぬと呼ぶのを躊躇してしまうほど、大きさや

姿、形が多様化しています。

3、ねこではどうでしょうか？ 大型といわれるメインクーンという品種でも、どんなに大きくても普通のねこの大きさ（胴の長さ）の2倍にもなりません。また、毛の色や長さは多様でたくさんの品種があるものの、体そのものの姿や形は「いぬ」のように多様ではなく、ねこは原種の「リビアママネコ」からあまり変わっていません。街を歩いていると、毛柄も姿もリビアママネコと間違いそうなノラネコに出会うこともあるはずです。

ではなぜ、ねこは他の家畜とは異なり、外見的には原種から変わっていないのでしょうか？ 家畜を人間のつごうのよいように変えてゆくには、人間がその繁殖をコントロールすることが必須です。飼育している動物が勝手に繁殖しないように隔離し、動物の発情には目を光らせ、人間が選んだ相手とのみ繁殖が許されるように管理しなければなりません。しかし、自由きままに動きまわり、「いぬ」のように命令に従うことなどない、わがままな「ねこ」に対して、このような管理が③ヨウイでないことは想像できます。4、ねこは三次元的な動きをしますし、ちょっとした隙間も通り抜けます。大昔には現在のマンションのような気密性のある建物や飼育小屋もなかったことでしょう。発情期には外に飛び出して、野生のリビアママネコと交配してしまうことも度々あったと想像できます。これでは、他の家畜のように、体の姿や形を変えたり、たくさんの品種を作り出すほどの繁殖の管理は、とてもねこではできなかったのでしょうか。

そもそも人間は、ねこの姿を、魅力ある完成された形とみなして、毛色以外の外見は、それほど変えたいなどとは思っていなかったのかもしれませんが。ネズミを退治してくれて、一緒に住める程度に人に④ナれてくれて、美しい姿のままでいてさえくれば、それで充分なのだと、そう思っていたのかもしれませんが。かくして、ねこは野生の魅力をほとんど損なう事なく、1万年近くも前から人間と一緒に暮らしているにも関わらず、「家畜」という呼び名が最もふさわしくない、「家畜」として現在に至っています。

〈山根明弘著『ねこの秘密』（文春新書）より。一部改変〉

〔語注〕

※伴侶動物……………単に可愛いがるだけではなく、自分と共に生きるものとして、家族や仲間と同様の深い関わりを持つ動物のこと。

※精悍……………姿や動作にたくましさが見えつついる様子。

※躊躇……………決心がつかず、迷うこと。ためらうこと。

※気密性……………すき間がなく、外部の空気を通さない性質のこと。

※交配……………異なる性質を持つ動物のオスとメス、または植物のお花とめ花をかけあわせること。

問一 ① ユソウ ② 年配 ③ ヨウイ ④ ナれて の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直さない。

問二 1 4 にあてはまる言葉としてふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

ア では イ さらに ウ なぜなら エ しかし オ たとえば

問三 A 食料以外の目的 とありますが、筆者はこれについてまず、「人間が身につける物の材料にする」ことを挙げています。それ以外に筆者が示している「目的」を三つにまとめ、それぞれ本文中の言葉を使って簡潔に答えなさい。

問四 B 家畜化のプロセス とありますが、「プロセス」とは「物事の進んでいく道すじ」のことです。「ねこ」の家畜化の道すじで「他の家畜」と異なる点を、三十字以内で答えなさい。

問五 本文では、「ねこ」と「ネコ」が使い分けられています。この二つは、どのように使い分けられていると考えられますか。「ねこ」と「ネコ」が示す内容の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ねこ」は小型、「ネコ」は大型。
イ 「ねこ」は家畜、「ネコ」は原種。
ウ 「ねこ」は従順、「ネコ」は危険。
エ 「ねこ」は日本産、「ネコ」は外国産。
オ 「ねこ」は野生動物、「ネコ」は愛玩動物。

問六 C 緩やかな関係 とありますが、これとほぼ同じ意味で使われている言葉は何ですか。本文中からぬき出して答えなさい。

問七 D ネコが人間と出会って1万年近くが経過しているにも関わらず、ほとんど体の形や大きさが変わっていない とありますが、筆者はこの理由を二つあげています。一つは、「人間はもともと、ねこの姿を変えたいとは思っていなかったから」ということです。もう一つはどのような理由ですか。筆者が考える「ねこ」の特徴をふまえた上で、四十字程度で答えなさい。

問八 本文の内容に合うものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ねこはいぬとは違い、愛玩動物にすることを目的として家畜化されたのではない。
イ いぬはねこと同じく人間と深いつながりがあるので、家畜と呼ぶのはふさわしくない。
ウ アオダイショウは、ひと昔前までは家畜として人間の家屋の中で大切に飼われていた。
エ 牛や豚はいぬと同様に、人間のつごうに合わせて原種の姿や性質を変化させられてきた。
オ 家畜の恩恵のうちもつとも重要なものは、それらが人間の食料になっていることである。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。※のついた言葉には、文章の最後に注をつけてあります。

あみ子は、父と義理の母（父の再婚相手）、兄の四人で暮らしている。母は家で書道教室を開いており、あみ子は大好きな「のり君」が習字を習っているところをそつとのぞいて見るのが好きだ。十歳の誕生日にトランシーバーをプレゼントされたあみ子は、母のおなかに宿った赤ちゃんトランシーバーで遊ぶことをとても楽しみにしている。

あみ子がトランシーバーをもらった日から数えると約三ヶ月後の十二月、そのころの母はとても大きなお腹を抱えながら習字を教えた。生徒たちがお腹をさわりましたが、その①都度母は笑顔でさわらせてあげていた。手を置いたのり君が、今動いたよ、とまわりの生徒たちに教えているところをあみ子は襖の陰から見ていたことがあった。たまに台所であみ子にもさわらせてくれたけれど、母はあみ子がさわるときは「はいおしまい」とすぐ言った。長い時間はさわらせてもらえなかったから、赤ちゃんが動く感触を手のひらで受けとめることはできなかった。単に固くて温かくて丸いもの。それをこちょこちょとくすぐって、「赤ちゃんこそばゆいかねえ」と言うと、母は「さあ……」と言い、喜んでいいのか悲しんでいるのかどっちなのかわからない顔をした。

「あみ子さんはおねえちゃんになるのよ」そう伝えられた日は嬉しくて叫んだ。おねえちゃんになる、赤ちゃんがくる、なにをして遊ぼうか、なにをプレゼントしようか、朝から晩までそのことばかり考えた。それは兄も同じだった。

「男がええのう。男が生まれたらキャッチボールするんじゃない」と、よく話していた。あみ子はボールが怖いから、キャッチボールはできないけれど、トランシーバーという最強のおもちゃを手に入れていた。生まれてくる弟と、この銀色に光るトランシーバーでスパイごっこをするのだ。胸が高鳴った。

★ A いよいよ今日というその日、練習をしておこうと思いついた。おもてに出て試したかったのだが、朝から雨が降っていて外は凍えるほど寒かった。練習は家の中で行うほがなく、二階の自室にいた兄に二台セットのトランシーバーのうち一台を手渡しして、一階に下りてくれるようたのんだ。今日はあくまでも出産予定日当日であって、赤ちゃんが家にやってくる日ではないことと、仮にやってきたとして

もトランシーバーを使って会話ができるようになるのはまだまだ先であることを、兄は妹に言わなかった。

「よっしゃわかった」と言つてトランシーバーを受け取り、どこかと足音をたてて階段を下りていった。不良以前だ。

耳を澄まし、兄が階段を下りきつたことを確認してから、トランシーバーの通話ボタンを押した。^B人差し指に触れたボタンのくつき

りとした感触を、あみ子の全身が手を叩いて歓迎した。大きく息を吸いこんで、記念すべき第一声。

※「おーとーせよ。おーとーせよ」一階で待機しているはずの兄に呼びかけた。

「……」返事はなかった。

「おーとーせよ。こちらあみ子、こちらあみ子。おーとーせよ」ザーザーと雑音ができるだけで、やはり兄の声は聞こえない。「もしもーし。もしもーし。おーい」

辛抱強く待っていると、ピーギヤーと耳障りな雑音の中、かすかな話し声のようなのが聞こえてきた。それがトランシーバーを通して聞こえてくる音声なのか、直に自分の耳がキャッチしたもののなのか、あみ子にとってはどちらでもよいことだった。とにかく、聞こえてきたのは兄と、それから父の声だった。母と一緒に病院へ行っているはずの父が帰ってきている。生まれたのだ。あみ子は腰を屈めた姿勢から瞬時に起き上がって鼻息荒く部屋の扉を開けた。「おかえり。赤ちゃん生まれたん」

喜び勇んで階段を駆け下りたのと同時に、がちゃん、と玄関の扉が開まる音がした。兄だけが廊下に立っている。

「お父さんは。どこ」興奮しながら兄に訊いた。

「病院戻った」

「ふーん。赤ちゃんは」きよろきよろ見回しながら兄に訊いた。

「……おらん」

「どこにおらん」

「どこにもおらん」

兄は下を向いたままあみ子の横を通り過ぎて静かに階段を上り、自分の部屋の扉を開めた。^Cその右手にはトランシーバーが握りしめられたままになっていた。^Dザーザーピーギヤガビビと、あみ子の手元だけがやたらに騒

ひとり残された廊下は固くて冷たい。家の中のものには吐く息は白かった。

がしかった。

母が退院して帰って来る日は牡丹雪が降っていた。あみ子は家の外で、降ってくる重たそうな雪片を手でつかまえたり、つららを舌の上で溶かしたりして、母の帰宅を待っていた。長い時間待ちすぎて、母が父の車で帰宅したときには、「おかえり」と発声したつもりだったけれど、上下の前歯がガチガチ音をたてただけだった。それでも母には伝わった。

「ただいま」そう言つて、母はあみ子の手を取った。あみ子はびっくりしてその手を引っこめようとした。だが母は娘の右手を離さない。上下から押さえるようにして包みこみ、「氷みたい」と小さく言った。

母にふれられるのは変な気分だった。あみ子はそれまで母から抱きしめられたり頬ずりされたりぶたれたり引きずり回されたりしたことが一度もなかった。いやな気持ちではなかったけれど、なぜいきなりさわってくるのか不思議に思いながら、覆われた自分の手と、青白い母の顔を交互に眺めた。そのとき、母が少し小さくなっていることに気がついた。別物のようにべちゃんこになった腹はもちろんだけれど、あごの下のほくろまでもが。父に「早く入ろう、風邪ひくで」と言われ、三人で玄関に向かった。扉を開けて中に入るまで、母はあみ子の手を取ったままだった。もう一度母の顔を見ようと顔を上げたときに、牡丹雪がちょうどまぶたの上に舞い落ちた。かぶりを振り、ひんやりする左目を慌ただしくしばたかせていると、頭の上で「あらあら」と言う声がした。

会うひとみんなが^E赤ちゃんのことをとても悲しいことだと言った。通りをあるく兄やあみ子はいろんなひとから呼びとめられて、残念だったね、元気だしてね、と何度も同じ言葉を聞かされた。その度に「そうよ。ほんまにがっかりしたよ」とこたえる妹の横で、兄は「うん、まあ、はい」と、低い声で返事をしていた。

家へ帰れば、あみ子は病院から戻ったばかりであり動き回ることができない母のために、自作の紙芝居を披露したり、部屋までジュースや菓子^{カシ}を運んだり^②と忙しく働いた。輪ゴムが指と指の間を瞬間移動する手品を見せたときは、あたしにも教えてほしいとたのまれたので、毎日母を^②トックンした。母になにかを教えるのは初めてのことだった。母が手品を習得すると、父を呼んで披露した。父は、「すごい。あみ子とお母さんで親子マジシャンになれるのう」と言つて、大きな拍手を送ってくれた。すると母はあみ子に向かって片手を上げて、自分の手のひらを向けて見せた。瞬時には意味がわからなかったけれど、理解し、こちらと同じように手を上げた。母の手のひらと娘の手のひらが合わさって、パチンとよい音がした。生まれて初めてのハイタッチだった。

道路を茶色く汚していた雪が、すっかり溶けてなくなったところ、「あみ子さん、お散歩に行こうか」と誘われた。風はまだ冷たかったが、

もう春なのか太陽の光はあたたかだった。近づくにつれ緑のにおいが強まってくる場所を、母と二人でのんびり目指した。河川敷に到着するとよもぎとつくしを夢中で摘んだ。気がつけばもう三時だねと母が言い、芝生に敷いたシートの上で持ってきた弁当の包みをほぐした。おにぎりはあみ子の好きな俵形に握ってあって、細く切った海苔が巻いてある。ウインナー、きんぴらごぼう、マカロニサラダ、たまご焼。型抜き器を使い、にんじんを花の形にくり抜くときはあみ子も手伝った。

デザートのいちごを食べていると、「あみ子さん、ありがとう」と、突然母が礼を言った。

「なにが」

「あみ子さんはやさしいね。孝太さんもやさしいね。お父さんも、みんな」

「そうかねえ」言いながらあみ子はべろの表面には貼りつきたいいちごのへたを指でつまんで口からだした。「やさしいかねえ」

「みんなやさしくて、お母さん嬉しいわ」

「ふうん」母が元々細い目を更に細めてこちらを見ていた。あみ子は三つ目のいちごに手を伸ばした。「やさしいかねえ」

母はオレンジ色をしたプラスチック製の箸を、目の前で持ち直しながら言った。

「このお箸は孝太さんにもらったのよ。これでうまいもの食って早よう元気になってくれんといけんよって。孝太さんにもらったお箸を使つて、あみさんと一緒に作ったお弁当を食べて、お母さんほんとに嬉しいわ」

このごろ母は自分自身を指して「お母さん」と言う。初めて顔を合わせた日からずっと「あたし」だったのに。

「ねえあみ子さん、帰ったらさつき摘んだよもぎでお父さんに天ぷら作ってあげようか」

「うん」

「お手伝いしてくれるかな」

「うん」

「ふふふ」

次第に空気が冷えてきて、母が鞆の中から毛糸のセーターを取りだして着せてくれた。もう少し遊んでいたくて、「四つ葉のクローバー見つけるまで」と約束し、二人で芝生に座って雑草をつまんだりしながら、おしゃべり続けた。

「そろそろ教室もスタートさせようかな」母が言った。

「させようやー」こぶしを高く突き上げ、あみ子がこたえた。

三ヶ月間、田中書道教室は③リンジの休みということになっていた。再開ということになればまた毎週のようにのり君が家にくる。もちろん学校へ行けば会えるのだが、登校したところで先生たちから叱られてばかりのあみ子は、最近では保健室で寝て過したり図書室でマンガを読んだり、授業には参加せずに独自の方法で下校までの時間を潰すことのほうが多かった。なによりものり君は、書道をしているときが一番魅力的なのだ。あの姿、また見れる。「見てもいい？」母に訊いた。

「いけません、と言ったときの母の顔と声を思い出さ。しかし目の前にいる母は胸を張ってこう言った。「あら、あみさんも一緒にお習字するのよ。いくらお母さんでも手加減なしでいくからね。覚悟しといてね」

驚いた。ついに自分も母の生徒になるという。今日一日ずっと笑顔だった母を見上げると、寒い冬の日、あんなに小さく見えたほくろが元の大豆粒の大きさに戻っていて、母が声をたてて笑う度にあごの下で一緒に揺れた。

書道教室は新年度からの再開と決まった。

〈今村夏子著『こちらあみ子』（ちくま文庫）より。一部改変〉

【語注】

※トランシーバー……………送信と受信機能のついた携帯用無線機。子供用のおもちゃとして広く出回っている。

※のり君……………あみ子の知り合いの男の子。兄の友だち。

※こそばゆいかねえ……………くすぐったいかなあ。

※おーとーせよ……………応答せよ。トランシーバーでの会話を始める時の決まり文句で、こちらの呼びかけに答えてください、という意味。

※かぶり……………頭。

※しばたかさせていると……………何度もまばたきをしていると。

※孝太……………あみ子の兄の名前。

問一 ① 都度 ② トククン ③ リンジ の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

問二 A いよいよ今日というその日 とありますが、「あみ子」にとつての「いよいよ今日というその日」とはどのような日のことでしたか。文中から十字く十五字でぬき出して答えなさい。

問三 ★印から最後まで文章を、時間の経過を手がかりに三つのまとまりに分けるとどのようなになりますか。二つ目のまとまりの始めの五字、三つ目のまとまりの始めの五字をそれぞれぬき出して答えなさい。

問四 B 人差し指に触れたボタンのくつきりとした感触を、あみ子の全身が手を叩いて歓迎した。からは「あみ子」のどのような気持ちが読みとれますか。答えなさい。

問五 C その右手にはトランシーバーが握りしめられたままになっていた。とありますが、なぜ「兄」の「右手にはトランシーバーが握りしめられたままになっていた」のでしょうか。「兄」の心の状態を考えて答えなさい。

問六 D ザーザーピーギヤガピピと、あみ子の手元だけがやたらに騒がしかった。とありますが、この表現は文章にどんな効果をあたえていますか。もつともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア リズミカルでゆかいな音を描写することで、あみ子の気の毒な状態に救いをあたえ、物語に明るさを出す効果。

イ カタカナ語を多く用いることで、読みとりにくいあみ子や兄の孝太の気持ちを具体的に想像させ、理解しやすくする効果。

ウ 描かれる内容の重さと不釣り合いな音の描写をすることで、かえって静けさや重苦しいふんいきを読み手に印象づける効果。

エ あまり聞くことのない雑音をそのままに描写することで、物語の内容によりいっそうの真実味を加えている効果。

オ トランシーバーの音を描くことで、あみ子がいかにトランシーバーを大事にしているかを強調して読み手に示す効果。

問七 「母」の「あみ子」に対する接し方は、赤ちゃんがお腹にいる時と退院後ではどのように変化しましたか。四十字以内でまとめなさい。

問八 E 赤ちゃんのこと とありますが、これは具体的にはどのようなことを意味していますか。書きなさい。

問九 文中の「あみ子」について述べられたものとして、もつともふさわしいものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あみ子はだれよりも母が好きで、母を心から心配するやさしいところがある。

イ あみ子は気持ちをストレートに言葉や態度に表す、子どもらしい子どもである。

ウ あみ子には母や父が自分をどう思っているかを気にする神経質な面がある。

エ あみ子は新しいものに熱中すると我を忘れ、周りにめいわくをかけることがある。

オ あみ子は、兄の孝太に比べて素直で近所の人からとてもかわいがられている。

採点欄
解答を記入
しないで下さい

[illegible]